



平成 28 年度 小樽商科大学学術研究奨励事業  
第 11 回 「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

## 目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評 .....	3
審査員一覧 .....	5

## 総 評

学生論文賞実施委員会  
委員長 山田 久就

今年度は、学部生部門に51編に応募がありました。学部所属学科では商学科が24編と最多で、続いて社会情報学科から14編、経済学科から7編、企業法学科から6編の応募がありました。大学院生部門には応募がありませんでした。

審査は、プレゼンテーションによる第1次審査と、論文審査による第2次審査の2段階で行いました。第1次審査の発表数は51編（学部学生51編）で、26名の教員が審査にあたりました。第2次審査は第1次審査を通過した23編が対象となり、39名の教員が審査を行いました。

厳正なる2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞3編、奨励賞8編、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるプレゼン賞1編、発想・構成・技術等、際立って卓越したものがあある論文に対して授与される特別賞4編となりました。

上位入賞者の論文は、特に第2次審査において査読担当者から高い評価を得ています。「論文の形式・アプローチ・方法論」、「論理構成」、「テーマ設定」、「オリジナリティ」の点で、奨励賞受賞論文に比べて全体として高い評価が与えられています。奨励賞受賞論文は、これらの点でいくつか低い評価が下されていることが指摘されます。特に、先行研究のレビュー不足や論文全体の論理構成の弱さが評価を下げる要素となっています。高いレベルの論文を目指す学生の皆さんには、論文執筆の基本的な様式のほか、テーマの独自性を「独りよがり」ではなく客観化・相対化するための理論的な裏づけを十分に意識することを心掛けてください。

本論文賞では、2段階審査のいずれにおいても、応募者への評価のフィードバックが行われています。これは論文執筆のノウハウや研究能力のレベルの向上につながるものですので、ぜひ今後に役立てていただきたいと思います。

本年度もご多用の中、審査にご協力いただいた教員の皆様には、厚く御礼を申し上げますと共に、来年度も是非ご協力いただくようお願いいたします。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して感謝の意を表します。

## 審査結果一覧

### ヘルメス賞

「クロスワードパズル生成問題の新しい定式化」 佐藤 潤一

### 優秀賞

「営業管理様式と営業行動のギャップに関する統計的事例分析」 白橋 卓也

「地域に対する個人的な繋がりが消費者選好に及ぼす影響についての分析」 中田 康子

「旭川家具産業集積における新規創業発生のメカニズム」 大野 沙姫

### 奨励賞

「未利用資源の認知メカニズムと企業家の役割—星野リゾートグループの事例分析—」  
須藤 佑季

「トービンの q 理論を用いたリース設備投資関数の実証分析」 水戸部 伸伍

「ビルディングパズルの自動生成」 田中 良弥

「スポーツ観戦の満足度における顧客同士の相互作用の影響について」 佐藤 愛

「新しいディズニー消費—制服を着る若者達—」 渡辺 麻衣

「地域企業における戦略的地域性とドメイン・コンセンサスの関係メカニズム  
—ラッキーピエログループと函館地域のシンクロニゼーション—」 野土 千尋

「歪んだ鏡像—Truman Capote, Other Voices, Other Rooms における  
鏡のモチーフと分身の技法—」 高井 凌

「ファミリービジネスの企業家継承と物語志向性—日清食品グループの事例分析—」  
神谷 滯奈

### 特別賞

「クロスワードパズル生成問題の新しい定式化」 佐藤 潤一

「ビルディングパズルの自動生成」 田中 良弥

「三つの視点から見る求人詐欺—各々が今できることは何か—」 青木 龍之介

「カラーブロックを用いた高校生の進路及びまちづくりに関する意識調査」  
小形 雄輝  
松尾 玲美  
加賀 拓弥  
水野 広崇

### プレゼンテーション賞

「クロスワードパズル生成問題の新しい定式化」 佐藤 潤一

## ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

### ヘルメス賞

#### 「クロスワードパズル生成問題の新しい定式化」

佐藤 潤一

クロスワードパズルの自動生成は多数の人が興味を抱く課題である。

パソコン等で動作する有料無料のアプリケーションソフトも多々ある。

これを実現する一手法を研究成果として発表することは多数者の利益となる。

本論文では、辞書からクロスワードパズルを自動生成する手法を研究している。パズル生成の慣習等をもとにいくつかの制約条件を提案し、これらが同時に成立する解を探索する。この多重制約条件を解く際のツールとして IBM 社製の有料ライブラリを用いている。実際にパズルを生成する際、複数の制約条件を取捨選択しており、これらの条件はパラメータとして機能している。

本論文における目的は、遊戯可能なパズルの生成であり、実行可能なアプリケーションソフトウェアを開発できた点において、非常に優れている。

### 優秀賞

#### 「営業管理様式と営業行動のギャップに関する統計的事例分析」

白橋 卓也

本論文は、営業管理様式の選択問題について、営業管理者と営業担当者の業績評価指標に対する認識のねじれの存在とその影響を、独自に実施したアンケート調査の定量分析を通じて明らかにしようと試みたものである。

本論文で先行研究として取り上げた文献は、既存研究の「穴」を指摘するには数と年代の点で十分とは言えない。しかし、取り上げた文献を深く検討することでその貢献と限界を明らかにし、その理解に基づいて論理的に研究課題を設定している点が本論文の優れているところである。また、企業においてアンケート調査を実施し定量分析を通じて、営業管理者と営業担当者の認識の差異を明らかにした点も本論文で高く評価される点である。総じて、本論文は理論と実務の双方への貢献を目指して研究の設計から実施まで極めて意欲的に取り組んでおり、学部学生の論文として高い水準にあるものと言える。

**「地域に対する個人的な繋がりが消費者選好に及ぼす影響についての分析」** 中田 康子

研究目的、リサーチ・クエスチョン、研究方法、結論の論理的な一貫性が高く、とりわけ方法論については丁寧な調査と分析が行われており、学部生の論文としては高いレベルにあると評価できる。地域への高い関心と現代の組織経営において不可欠な要素となっているブランディングに着目している点でも、商大生らしいテーマ設定であり好感が持てる。また理論的にも実務的にも蓄積が決して充分とは言えない地域ブランドをテーマとすること自体にも一定の価値が認められる。さらに、「地域プレミアム」とそれらに影響を及ぼすと想定できる消費者個人の要因のもつインパクトを定量的に推計している点で新規性があり、実務的貢献も認められる。惜しまれるのは、筆者の主張する「地域プレミアム」や「地域プレミアムが一般認知要因と個人的要因の2つから構成されることを明らかにすること」の理論的価値やオリジナリティを明確にするためには、より適切な先行研究のレビューがあったのではないかとと思われる点である。消費者行動論における関与概念、ブランド論における価格プレミアムと数量プレミアムといった既存概念との異同の中で議論をおこない、実証をおこなうことで、本研究の価値はより明確なものとなったと考える。とは言え、冒頭で述べたように、本研究が学部生の論文であることを考えると優秀なレベルにあり、高く評価できるものとなっている。

**「旭川家具産業集積における新規創業発生のメカニズム」** 大野 沙姫

本論文は、地方都市における産業集積をテーマとし、旭川における家具産業をケースに新規創業発生のメカニズムについて研究した意欲作である。旭川の4つの代表的な家具会社についてインタビューを行いながら詳細なケース分析を行っている。どの企業も中小企業であるため、財務データの収集などには制約があったと思われるが、定性的な分析によりそうした制約を感じさせない分析内容となっている。個人的には人的ネットワークの重要性に注目した点を高く評価したい。地方における産業育成は喫緊の課題であるが、そうした課題の解決に大きく貢献できる研究であると思われる。総体的に学部学生の論文としては、優秀賞に十分値する優れた研究であると言える。

## 審査員一覧

### 第1次審査員一覧 (50音順)

天野 大輔	市原 啓善	猪口 純路	江頭 進	大津 晶
岡部 善平	嘉瀬 達男	金 鎔基	堺 昌彦	佐々木 香織
瀬戸 篤	高野 寿子	玉井 健一	辻 義人	中津川 雅宣
中浜 隆	西村 友幸	羽村 貴史	原口 和也	船津 秀樹
三谷 和史	南 健悟	山田 久就	劉 慶豊	林 松国 和田 良介

(以上26名)

### 第2次審査員一覧 (50音順)

穴沢 眞	阿部 孝太郎	天野 大輔	石川 業	伊藤 一
猪口 純路	内田 純一	大津 晶	尾形 弘人	岡部 善平
加藤 敬太	北川 泰治郎	木村 泰知	金 鎔基	小泉 大城
堺 昌彦	佐山 公一	白田 康洋	杉山 成	鈴木 和宏
副島 美由紀	高宮城 朝則	多木 誠一郎	田中 晋矢	玉井 健一
辻 義人	手島 直樹	中浜 隆	行方 常幸	西村 友幸
沼澤 政信	原口 和也	深田 秀実	船津 秀樹	南 健悟
芳澤 聡	李 濟民	劉 慶豊	林 松国	

(以上39名)